

# ●●●暮らしたの広場●●●

**がん**

**克服へ**

■乳がん編

111

工藤 明敏



遠隔転移とは大きく異なります。手術を行った側

再発とは、小さながん細胞が最初の段階から体のどこかに潜んでいて、初期治療の後出てくることです。

初期治療を受けた乳がん患者のうち約3割は10年以内に再発しますが、まれに10年以上経過してから再発する場合があります。これも乳がんの特徴です。

再発の治療は、局所再発と遠隔転移

## 生活の質を重視する

の乳房や周囲の皮膚・リンパ節に起こる再発を「局所再発」といいます。皮膚の発赤や皮下のしこりとして自覚されま

す。残存乳房内再発には、追加乳房切除を行います。その他の局所再発は再発部位を切除したり、放射線照射を検討

乳房から離れた骨・肺・肝臓・脳などに起こる再発を「遠隔転移」といいます。肺がんや消化器のがんに比べて、乳がんは骨に転移しやすい特徴

があります。骨に転移した場合は、その部位に痛みを感じたり、骨折を起こすことがあ

以外にもがん細胞は潜んでい

るため、再発部位を切除する

ことは通常ありません。多く

の場合完全治療が望めないこ

とから「生活の質を重視した

延命」が治療の第一目標とな

り、体全体に効果のある薬物

療法が治療の中心になりま

果のある間はそれを継続し、治療を変えることはありません。効果がなくなつてから別の治療法に変更します。

脳は頭蓋骨で囲まれているため、脳転移が大きくなると正常の脳が圧迫されて頭痛・吐き気・まひなどの症状が現れます。また転移が複数箇所であることも特徴です。脳は体を動かす司令塔ですので、転移した箇所により症状は異なります。

肺転移の場合は、息切れや咳が続くことで気付くことがあります。肝臓転移の場合は、症状が出にくいことが多いです。

いずれの遠隔転移も小さい場合は症状がありません。画像検査で再発を確認した部位



骨シンチグラフィ。矢印が骨に転移したがん

脳血管と脳組織との間にはバリアがあって、ほとんどの抗がん剤は脳組織には届きにくいのが実情です。そのため放射線治療が主体となります。少数箇所の転移の場合は、頭部専用に関与されたガンマナイフと呼ばれる装置を使用します。多発している場合は、脳全体に放射線照射を行います(全脳照射)。最近一部の分子標的治療薬(がんの増殖や転移に必要な分子を抑制)が効くと言われています。

(阿知須共立病院診療部長、外科部長)

### 再発乳がんの治療